SecurityScorecard

SecurityScorecard社ブログ

発行日：2021年6月8日

執筆：SecurityScorecard 中村 悠
編集：SecurityScorecard 中島 朝可・橋本 詩保

従来の取引先のライフサイクル マネジメントには足りない『サプライチェーン リスク マネジメント』を実現するための要素とは？

『サプライチェーン リスク マネジメント』という言葉がメディアに多く取り上げられるようになり、ほとんどの組織で、取引先のセキュリティ リスクに適切な注意を払うようになってきています。しかし、継続的に監視する必要性を認識しながらもなかなか実行できていないのが現状です 。
このような背景の元、取引先が抱えるセキュリティ リスクの効率的な管理をプロセス化する必要性が高まっています。

取引先のライフサイクル マネジメントとは？

従来、取引先のライフサイクル マネジメントには、

1. 取引開始前の適格性調査
2. 取引開始時の諸条件の確認
3. 商品/サービスが正しく提供できるかの確認
4. 財務状況の定期的な確認
5. 取引終了時に行う手続きの確認

という5つのステップで構成されていました。しかし、データ侵害リスクが増大している昨今では、

- セキュリティ態勢の確認

も併せて考える必要があります。

もちろん、既に、「1. 取引開始前の適格性調査」において、取引先のセキュリティ態勢の確認をしている組織は多くあります。しかし、サイバー攻撃の手法は日々進化しているため、取引開始時だけではなく、取引終了までのライフサイクル全体にわたってそのセキュリティ態勢やリスクを継続的にマネジメントすることが急務です。

続きを見たい場合は
メーカーBlogへ
HTTPS://SECURITYSCORECARD.COM/MONITORING-SECURITY-POSTURE-JP